

新年を迎えて

被爆国日本の針路によせて

本会常任世話人代表・望田幸男

核禁条約発効から一年、核兵器禁止条約第一回締約国会議を前にして、核兵器固執政策の放棄を、国際世論の巨波として迫るべきときが到来しています。とりわけ唯一の被爆国日本の動向に内外の注目が寄せられています。私たちは、岸田政権の核兵器政策の実態を白日のもとにさらすとともに、気候危機など人類的課題について語り合い、さらには日本の進むべき道として「非核の政府」の実現への展望を探求しなければなりません。

私たち「非核の政府を求める京都の会」は、結成以来30有余年の運動の集積のうえに、すでに「脱原発」「再生エネルギーへの道」から「気候危機の阻止」にいたる一連のスローガンをかかげて、「2021年意見ポスター運動」を全京都市的に展開しつつあります。新春にあたり、この運動にも、「非核平和の日本」への志ある全京都の人びとのご賛同・協力を心より訴えます。